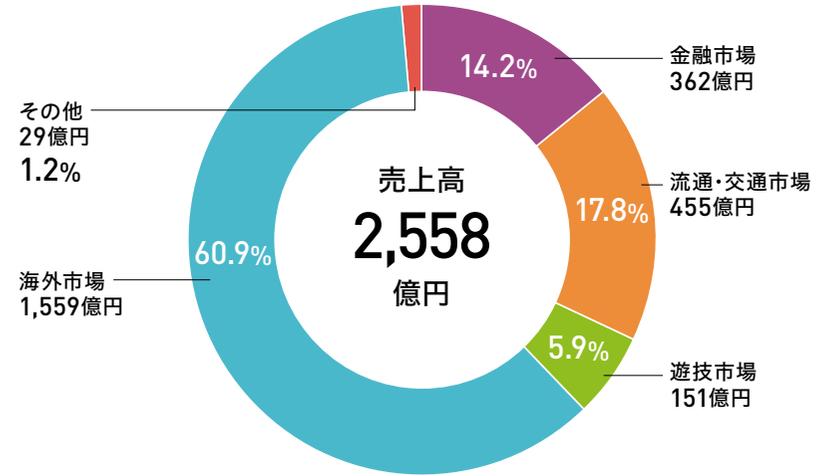


グローバルの事業

当社グループは、「金融市場」、「流通・交通市場」、「遊技市場」、「海外市場」の4つのセグメントと、それらに属さない製品・サービスを取り扱う「その他」で事業を構成しており、「認識・識別技術」、「メカトロ技術」及びデータアナリティクス技術を核としたビジネスモデルの構築を進めています。社会環境や時代の流れとともに変化するお客さまの課題に対して、市場ごとに包括的な戦略を立案し、最適な製品やソリューションを提供することで、顧客価値と収益力の向上を図っています。

セグメント別売上高(2023年3月期)



主な販売先	主要な製品、商品、サービス	特徴 (シェア、特色、競合)
-------	---------------	----------------

金融市場

国内の金融機関、OEM先等

- オープン出納システム
- 窓口用紙幣硬貨入出金機
- 紙幣両替機
- 重要物管理機
- 鍵管理機



国内シェア No.1 (オープン出納システム、窓口用紙幣硬貨入出金機) ※当社調べ

金融機関の業務改革に寄与するさまざまな製品・サービスを提供しています。営業店や本店の第一線から、現金集中センター、事務集中センターの後方業務までをトータルでバックアップできることが強みであり、競合他社の参入障壁でもあります。また、製品・サービスの販売だけでなく、地域特性や店舗形態に合わせた店舗施工の提案も行っています。販売機会としては、製品・サービスの新規導入のほか、経年機器の更新があります。このような金融機関向けの機器を扱う会社は、国内では、ローレルバンクマシン社や沖電気社などがあります。

流通・交通市場

国内のスーパーマーケット、百貨店、専門店、飲食店、警備輸送会社、公共交通機関、病院、自治体等

- レジつり銭機
- 売上入金金機
- 紙幣両替機
- コインロッカー
- 券売機
- セルフオーダーキオスク
- 診療費支払機
- 社員食堂システム
- 自書式投票用紙分類機
- 顔認証システム
- データ活用サービス
- 診療費後払いシステム



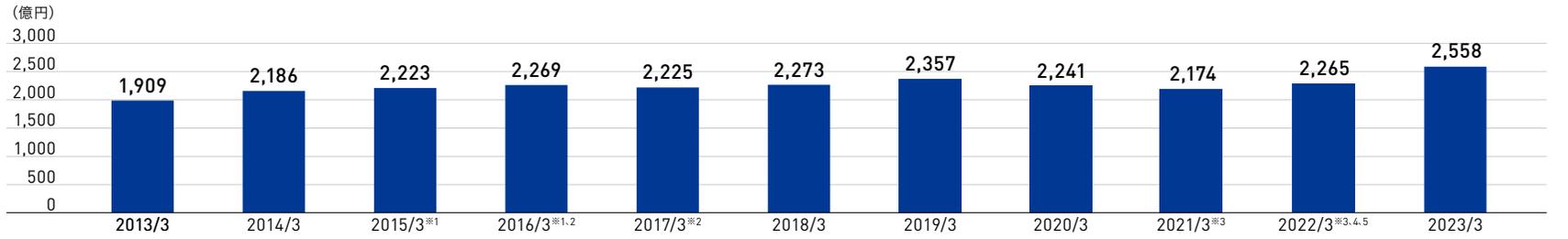
国内シェア No.1 (レジつり銭機、売上入金金機、コインロッカー) ※当社調べ

流通店舗等の精算業務や事務作業の効率化を実現する製品・サービスを提供しています。販売機会として、代表的な製品であるレジつり銭機は、経年による機器更新に加え、セルフ化への対応や導入先の裾野拡大による新規導入があります。また、データ活用サービスや顔認証システムなど、流通店舗の収益性やセキュリティを高めるソリューションの拡大も見込まれます。なお、レジつり銭機のプロバイダーには、当社グループのほか富士電機社や東芝テック社などがあります。

主な販売先	主要な製品、商品、サービス	特徴（シェア、特色、競合）
<p style="text-align: center;">遊技市場</p>	<p>国内の遊技場 (パチンコホール等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カードユニット ● カードシステム ● 紙幣搬送システム ● 賞品保管機 ● 各台計数機 ● ホール会員管理システム ● 玉・メダル計数機 <div style="text-align: center;">  <p>スマートパチスロ用ユニット 賞品保管機</p> </div>	<p>遊技台そのものではなく、遊技台の間に設置して入金や持玉の計数管理を行うカードユニットや、それらを一括管理するカードシステムが主要製品です。国内全体の約20%の遊技場に供給しています。遊技場では、利用者が出玉やメダルに触れることなく遊技可能なスマート遊技機への入替が2022年より進んでおり、今後5年程度はスマート遊技機向けカードユニットの販売機会の継続を見込んでいます。このような遊技場向けの周辺機器を扱う会社は、日本ゲームカード社やマースエンジニアリング社などがあります。</p>
<p style="text-align: center;">海外市場</p>	<p>海外の金融機関、 リテーラー、飲食店、 警備輸送会社等</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 窓口用紙幣入出金機 ● 紙幣整理機 ● レジつり銭機 ● バックオフィス向け紙幣硬貨入出金機 ● 硬貨包装機 ● 重要物管理機 ● セルフサービスキオスク ● グローバルデジタルサービス ● 金融シェアードサービス <div style="text-align: center;">  <p>窓口用紙幣入出金機 レジつり銭機 バックオフィス向け紙幣硬貨入出金機 グローバルデジタルサービス</p> </div>	<p>欧州、米州、アジアで、金融機関に向けては窓口用紙幣入出金機を、流通店舗に向けてはバックオフィス向け紙幣硬貨入出金機やレジつり銭機を100ヶ国以上に販売しており、高品質な製品・サービスと充実した直接販売・メンテナンスネットワークにより、強固なポジションを築いています。欧米の流通店舗では、バックオフィス向け入金機がすでに浸透していますが、現金管理の効率化やセルフ化ニーズの高まりにより、紙幣・硬貨をリサイクルできるバックオフィス向け入出金機やレジつり銭機の導入が拡大しています。このような機器を扱う会社は、当社グループのほか、米国ディーボルト・ニクスドルフ(Diebold Nixdorf)社などがあります。</p>
<p style="text-align: center;">その他</p>	<p>ロボット事業など上記のセグメントに属さない製品及び商品</p>	

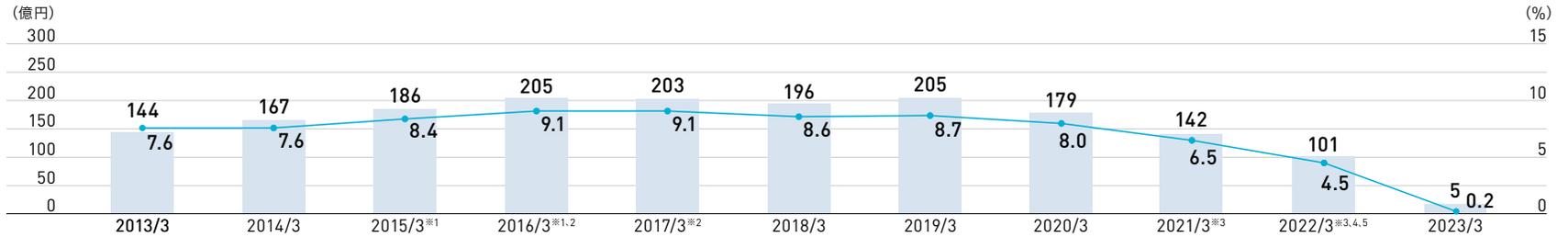
売上高
(11年分)

■ 売上高



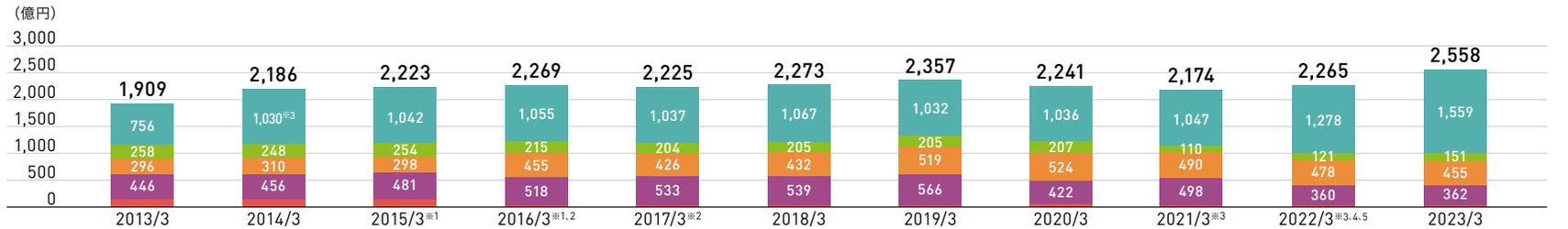
営業利益・
売上高営業利益率
(11年分)

■ 営業利益
● 売上高営業利益率



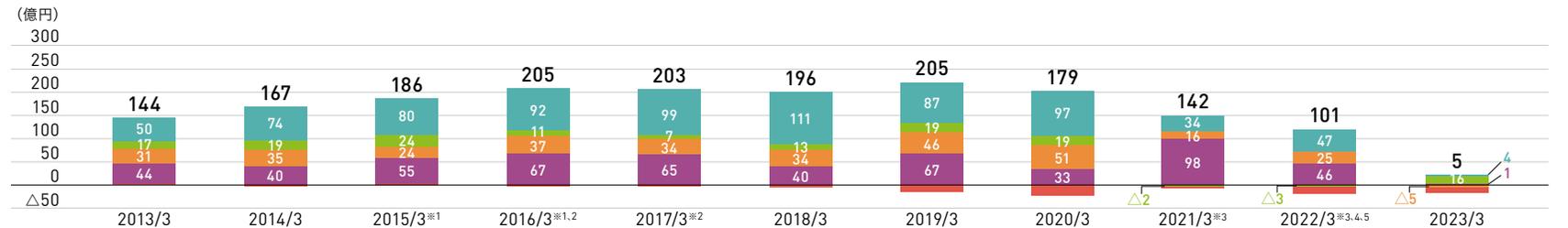
セグメント別売上高
(11年分)

■ 海外市場
■ 遊技
■ 流通・交通市場
■ 金融市場
■ その他



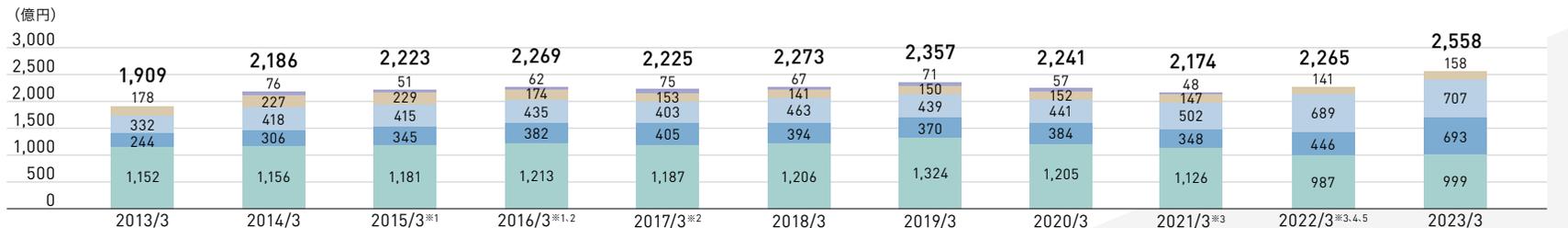
セグメント別営業利益
(11年分)

■ 海外市場
■ 遊技
■ 流通・交通市場
■ 金融市場
■ その他



地域別売上高
(11年分)

■ OEM
■ アジア
■ 欧州
■ 米州
■ 日本



※1 2016年3月期より、海外現地法人の収益及び費用の換算方法を「期末日レート」から「期中平均レート」に変更しました。2015年3月期の実績は、遡及適用後の数値を記載しています。
 ※2 2017年3月期より、事業セグメントを見直したことに伴い、従来「その他」に含めていた事業の一部を「金融市場」及び「流通・交通市場」に区分変更しました。2016年3月期の実績は、遡及適用後の数値を記載しています。

※3 2022年3月期より、事業セグメントを見直したことに伴い、従来「その他」に含めていた生体・画像認識事業及び電子決済関連に資する事業の一部を「流通・交通市場」に、新事業の一部を海外市場に区分変更しました。2021年3月期の実績は、遡及適用後の数値を記載しています。
 ※4 2022年3月期より、OEMの売上高は、米州、欧州、アジアの各売上高に含んでいます。
 ※5 企業連結に係る暫定的な会計処理の確定内容を反映し、2022年3月期の実績は、遡及適用後の数値を記載しています。